

発見！白井の仕事人 46

「コーヒーへの夢は止まらない」 有限会社 遠山珈琲

今回は根地区の風間街道沿いの大型珈琲豆専門店、市ふるさと産品も扱う(有)遠山珈琲を紹介しします。



【(有)遠山珈琲の外観】

今回のは根地区の風間街道沿いの大型珈琲豆専門店、市ふるさと産品も扱う(有)遠山珈琲を紹介しします。「白井の梨ゼリー」「梨ブランデーケーキ」などの市ふるさと産品の製造販売のほか、喫茶店経営者向けに始めた業務用食品の少量多品種販売も手掛け、いち早く個人でも買えるようにした草分け的な存在でもありません。



【自慢のコーヒー豆をもつ遠山さん】

創業者で代表取締役でもある遠山克利さんは以前、日東珈琲(株)に勤務し、老舗繁盛店として有名な銀座カフェ・パウリスタの復活店の初代店長として務めた経歴があることから、千葉ニュータウンの街開きで白井に越してきた1979(昭和54)年に、プロを育てるコーヒー教室講師を各地で頼まれるようになりました。当時はおいしいコーヒー豆が簡単に入手できない時代でしたが、教え子や団地の人のために豆を卸し始め、やがて講師だけでも暮らせる余裕ができたため、1984(昭和59)年に独立して西白井駅南側に(有)遠山珈琲を開業しました。多様な客層の利便に應えるため、1992(平成4)年に現在の場所に移転しました。

遠山珈琲は、天日干しの豆にこだわりをもち、大手がまねできない手間のかかる職人技「手焼き焙煎」で製造するコーヒーが自慢です。自らブラジルやコロンビア、グアテマラ、コスタリカなどを渡り歩いて採した農園と時期を指定して、コーヒーの品質を見分けるカップテスト

遠山さんは、ボランティアで県内の小学校や福祉施設などで珈琲教室を行っており、一般でも20人以上集まれば、材料費程度でコーヒー教室を引き受けています。また、店の隣では白井産珈琲豆の栽培に取り組み、3月には赤い実が、7月前後には花が咲くので来店のついでに足を運んでみてほしいと話していました。今後の夢を伺うと「夢を語らせたら止まらなくなるよ。コーヒー産地の文化まで紹介できるような珈琲ミュージアムを作れたらいいね」と笑顔で語ってくれました。

豆の生産地や品質にこだわった遠山さんのコーヒーを味わってみませんか。

【(有)遠山珈琲】 ☎(491) 8440 午前10時～午後7時 第3火曜日定休

【問】 商工振興課商工振興班 内線 3243

発見！白井の仕事人 47

「超高層ビル建設を支えながら」 100年先を見つめる 吉永機械株式会社

今回は、白井工業団地でクレーンや建設機械などの設計・製作・販売・レンタル、鋼構造物や機械器具設置などの工事も手掛ける吉永機械(株)を紹介しします。

同社は1967(昭和42)年に初代社長の池永武雄さんが東京都墨田区に設立、市川市に工場を開設しました。1975(昭和50)年に市川工場を閉鎖、白井工業団地に新設し、今年で創業50周年を迎えました。

当初は、主に港湾工事用作業船などを造っていましたが、培われた技術を内陸の建設業で応用することを考え、1986(昭和61)年にタワークレーンの「クライミング架台(クレーン)を乗せて持ち上がる機械」を開発してビルなどの建設現場に参入を果たしました。現在は建設現場で使われる特殊クレーンの受注製作や建設用機械のレンタルを中心としています。

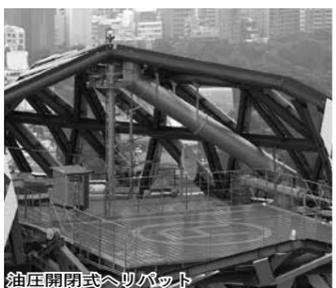


【特殊クレーン】

建設中のビルの上に見えるタワークレーンは、クライミングという作業で上がり、工期や工事全体に大きく関わり迅速性・高い安全性が求められています。「クライミング架台」は、極限

の水平性、クレーンを支持する堅固さ、高層化に対応する軽量化などのため、最適な鋼材を溶接して作る高度な技術や現場での組み上げ技術が必要です。高層ビル化が進む都市の建設現場に同社の技術力は欠かせません。

これまで、東京都庁、横浜ランドマークタワー、アベノハルカスなどの超高層ビルと関わりましたが、建設期間だけ使われる仮設機械が多く、形として残らないので世間一般で気づいてもらえないそうです。



【油圧開閉式ヘリパット】

「形として残る受注を増やして社員のモチベーションを高めたい」とする社長の考えで、近年は高層ビルの屋上に設置する緊急用のヘリコプターの簡易発着場などの本設機械にも力を入れ、自社の技術・製品を形で見えるようにしているそうです。

今後について奥村工場長は、「企業規模ではなく、強い企業体質を求める『山椒は小粒でもピリリと辛い』とする先代からの経営理念を受け継ぎながら100年企業となるべく努力していきたい」と話してくれました。

【問】 商工振興課商工振興班 内線 3243

発見！白井の仕事人 48

「本物を見極めるお手伝い」 ハタヤ本店

今回は「暮らしなんでもお助け隊」の一員で、富塚地区にあるハタヤ本店を紹介しします。



【ハタヤ本店の外観】

を持つ呉服店です。取り扱っている主力商品は、訪問着・袋帯などの呉服、和装品、洋装品、祭り用品といった日本の伝統に関わる着物ですが、着物を着る若い人が年々少なくなり、おばあさんやお母さんが持っていた着物のリメイクを頼まれることも多くなってきたそうです。



【四代目 川上克己さん】

同社は、初代の川上道三郎さんが1916(大正5)年に設立した川上染織工場が起源となり、今年で創業102年目を迎えます。

創業当初は「印西木綿」という織物の流れをくむ染織を生産していましたが、1930(昭和5)年に川上呉服店として呉服と米穀を扱う店に変わりました。戦中から戦後にかけて「繊維統制令」で呉服を扱えなかった時代を経て、1948(昭和23)年にハタヤ呉服店として復活し、三代目の三雄さんが1953(昭和28)年に法人化を図り、1973(昭和48)年にハタヤと改名しました。ハタヤは漢字にすると「機屋」で、機織りから始まった歴史が込められていると、代表取締役の四代目、川上克己さんが話してくれました。

ハタヤは時代の変化に合わせてこれまでさまざまな部門を開いては独立し、克己さん自身も教育資材事業部を立ち上げています。ハタヤ本店は言わばハタヤグループの中核で、長い歴史

克己さんは「通信販売の普及で画像だけ見て着物を購入する人が増えていますが、実物を見ないと生地や糸質、織り方、産地など分からないところが多く、洋服と違い長年着られる物だからこそ見比べて本物を見極めてほしいし、そのお手伝いをさせてもらいたい。また、商売とは別に端切れを持ち寄ってバックや人形を作る勉強会を時々開いています。手先を使うことで脳の活性化にもつながるので、興味のある人は連絡をしてくださ」と明るく話してくれました。

【ハタヤ本店】 ☎(492) 0454 午前9時～午後6時 水曜日定休

【問】 商工振興課商工振興班 内線 3243